

【保護者向け】 児童発達支援評価 集計評価

公表：令和6年4月1日

利用児数 184名

事業所：取手市立こども発達センター

回 収 87名 (47.28%)

実施期間：令和5年9月1日～令和5年12月28日

※無回答有

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	改善目標 工夫している点
環境・ 体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか。	82	5	0	0	・屋外活動用のスペースはもっと広げればよいと思います。	・法令を遵守した広さを確保しています。 ・限られた広さの中、遊具等の配置を工夫し活動の幅を広げていきます。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか。	68	12	2	5	・共働きで先生の予約が埋まっていると予約が入れられず困ることがあります。①固定の先生でなく、他の先生でも対応できるようにする、②運動する部屋が埋まっていたら小さな部屋でできる内容にする、など予約を入れやすいように工夫してもらえと助かります。そうできないと、月に一度も利用できないことや利用のために貴重な有給を使用することになりそうです。有給は子供の体調不良時や通院などで残しておきたいので、どうぞ宜しくお願いします。 ・配置数を増やすか日数が多いと次回の予約がとりやすいのかなと思います。 ・昨年度まであった言語療法体験だったので、それらをもう少し受けてみたかったです。 ・言語聴覚士さんの数が増えると助かります。 ・センターの先生の都合でレッスンがなくなる時は振替で別の日に受けられるようにしてほしい。 ・回数や支援の種類が増えたら有難い。 ・とても手厚いと思います。	・専門支援の予約方法やサービス提供方法（回数等）に関して、具体的な方策を検討していきます。 ・専門性のある人材の確保、育成に努めます。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、個々の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	73	8	3	3	・昨年度までは決まった部屋でしたが、今年度は毎回聞くように言われたので、先生の部屋が見てわかるボード等があったら嬉しいです。	・個人情報やプライバシーに配慮した形で支援を受ける場所が分かりやすくなるよう検討します。
	④ 生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか。	76	8	3	0	・ひまわり教室の横にあるこどもトイレ、手洗い用の水が出ないようです。 ・トイレが古く、和式がある。使いやすくなるともっと良いと思います。 ・湿気、ホコリ等が多い。	・トイレ水栓は速やかに修繕いたしました。 ・利用児のニーズに即した環境を整備していきます。 ・毎日、活動後、職員による清掃を実施し、年2回、専門業者による館内清掃を実施しています。
適切な 支援の提供	⑤ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されているか。	82	2	1	2		・面談を行った上でニーズを聞き取り、作成しています。
	⑥ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	72	3	1	0	・こどもの成長に合わせた支援内容を考えていただいています。	・具体的な支援内容の精査を定期的に行い、工夫、実践することで充実した支援を提供してまいります。
	⑦ 児童発達支援計画（個別支援計画）に沿った支援が行われているか。	77	2	1	6		・保護者と共通理解を持ちながら支援内容にあった支援を目指します。
	⑧ 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか。	77	7	1	2		・定期的な支援内容を精査し、専門性の高い外部講師によるスーパーバイズを受け、活動プログラムが固定化にならないようにします。
	⑨ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域のこどもと活動する機会があるか。	37	13	13	24	・発達センターに通っていることを知られたくない人もいると思うので、必要がないのかもしれない。 ・障害があることを知られたくないので、こういった活動には参加したくないです。 ・機会はないようです。 ・今後あったらいいなと思います。	・新型コロナウイルス感染予防の観点から令和5年度も地域との交流を慎重に検討してきましたが、令和6年度は保護者のニーズや児童の特性に配慮しながら、積極的な交流の機会を増やしていきます。
保護者への説明 等	⑩ 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか。	82	2	0	1		・契約時や法令の変更時など適宜わかりやすく説明することを心がけています。
	⑪ 「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか。	77	2	1	4	・支援内容が更新される度に説明していただいています。	・必要な支援について、わかりやすく丁寧に説明し、支援内容をご理解いただけるよう心掛けています。
	⑫ 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）が行われているか。	50	9	8	18	・ペアトしがあることで父親の意識も少し変わったので良いと思います。 ・ぜひ、来年度行って欲しい！	・令和6年度も継続してペアレントトレーニング等、家族支援プログラムの提供を推進してまいります。
	⑬ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか。	74	11	0	0	・保護者よりもよく見て下さっています。 ・お迎えのときにいつも子供の様子をお話してもらえて有難いと思います。	・集団支援の中では、連絡帳を用いたの情報交換、登園降園時の保護者の方とのコミュニケーションを大切に共通理解を取り組んでいます。 ・個別支援の中では、子どもへの支援後に毎回フィードバックを行い、保護者の方とコミュニケーションをとっています。
	⑭ 定期的な保護者に対して面談、もしくは育児に関する助言等の支援が行われているか。	70	8	4	2	・幼稚園の様子を見に行っていたけどことが事実上難しいということの様子でわかりません。	・定期的に面談の機会を設け、相談体制を強化しています。
	⑮ 父母同伴参加行事や保護者説明会等の開催により、保護者同士の連携が支援されているか。	28	11	13	33	・コロナのせいなのか、個人情報の関係なのか、保護者間の交流はなかった。 ・保護者交流はありません。開催案内や報告もこれまで聞いたことがありません。 ・親子運動会で綱引きやたっくらひ、そんなに連携する場面は少ないと思う。会ったらあいさつするくらい。	・令和6年度は保護者交流会、勉強会、懇話会等を開催予定です。 ・集団支援の中では親子で参加できる新規イベントを実施し、交流を深める取り組みをしていきます。
	⑯ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応されているか。	51	10	1	23	・ささいな事でも、先生方が連携してくださり、親身に見守って下さりアドバイスいただいております。 ・すぐに対応してくださり、感謝している。 ・幼稚園に訪問のお願いをしておりますが、難しいよう体制を整えてほしいです。 ・利用者が多いのは分かるが、残念な対応だったので、期待がなくなりました。（相談するということに対して）	・相談のしやすい体制の整備を進めると共に、他事業所を併用して利用されるご家族のために事業所間の連携も同時に進めていきます。
	⑰ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか。	74	7	0	4	・ささいなトラブルでもすぐ電話してくださいませ。	・将来的にICT化を進め、よりニーズに合った情報提供の形を整備しています。
	⑱ 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか。	46	7	4	28	・会報があるようだったら読んでみたいです。	・情報発信の為、「ここにこ通信」「すくすくだより」「ほげんだより」を定期的に発行しています。 ・自己評価の結果はホームページへの掲載、館内掲示等で発信しています。
	⑲ 個人情報に十分注意しているか。	74	3	0	8	・窓口でデスクが見えていることがあります。	・職員向けに定期的に個人情報保護、プライバシーへの配慮について研修を行っています。
非常時等の 対応	⑳ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	37	5	6	38	・個別指導のみのためわからないです。	・保護者が容易にマニュアル等を確認できるシステム（ICT化）構築をすすめます。 ・災害や感染症対応について定期的に研修・訓練を実施しています。
	㉑ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか。	31	4	4	47	・個別指導のみのためわからないです。	・集団支援の中では、定期的に避難訓練を実施しています。
満足度	㉒ 子どもは通所を楽しみにしているか。	82	4	0	0	・センター好きです。 ・休みの日もバスに乗りたくて言っています。 ・すごく楽しみにしている。 ・駐車場に到着すると大喜びしています。 ・色々な先生から声をかけてもらえて、子どもがいつも嬉しそうです。	・子どもたちがいきいきと活動できるよう、支援内容の工夫に努めています。
	㉓ 事業所の支援に満足しているか。	68	14	3	1	・とても満足しています。 ・リハそのものは満足しています。 ・月1回ではなく、もう少し回数を増やしてほしい。 ・他の事業所も利用したい。 ・診断と通所の案内がない状態ですが不安な障子です。職員が足りていないのだから状態が悪く、障子だとこのことで通っている、早く通所を示してほしいです。素人には全く分からない世界です。助けて下さい。 ・私自身も他のクラスの先生からアドバイズもらったこともあり、心強くと感じています。 ・月1、1時間参加して本人がつかれてしまったこと、今年度で最後の通所の年に先生が変更になったことで、ステップアップしていた支援が先生の慣らしからなくなってしまったのが1回しか通えないのに残念です。 ・先生方にはいろいろ教えていただき感謝しています。 ・幼稚園訪問の体制を整えてほしいです。 ・保護者交流、ペアレントトレーニングも開催してほしいです。開催しているのだったら、案内してほしいです。 ・今まで月2回だったのが、1回になってしまったのは残念です。 ・車がないので送迎していただいているが、自宅以外の場所（園⇄センター）もできるといいなと思います。 ・支援が必要な子に対する市の窓口がそれぞれの管轄が違うため、複数あってわかりにくいです。 ・発達センターさんの支援はとてもいいと思います。丁寧で誠実で、子どもも親もとてもわかりやすくご支援いただいています。ありがとうございます。	・今後はより相談体制を整備し、様々なニーズを聞き取り、実践していけるよう努めます。 ・取手市立こども発達センターとして地域の児童発達支援の中核的存在となれるよう体制を整備し、保護者支援、地域支援にも力を入れていきます。

【事業者向け】 児童発達支援事業自己評価 集計結果

公表：令和6年4月1日

職員数 22名

事業所：取手市立子ども発達センター

回収 20名 (90.9%)

実施期間：令和5年10月1日～令和5年12月28日

※無回答有

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点 課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	17	1	・もう少し受け入れ可能かと思うクラスもある。
	② 職員の配置数は適切であるか。	15	5	・子ども一人ひとりに丁寧に関わることの人員配置がされていると思います。 ・時と場合によって。 ・保育士、専門職の正規職員がもう少し人数がいてほしいのではないかと感じる。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。 また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達 等への配慮が適切になされているか。	13	6	・構造に適した備品や環境の精査が必要。 ・OTルームのプレイエリア側の窓から外の様子が見えることで、注意が逸れやすいお子さん多い。カーテンなどで仕切りをつけてほしいのかなと感じる。 ・段差やドアノブの取っ手など怪我につながる箇所あり。プレイエリアでの三輪車等の通行など、視覚的に伝えてほしいと思われる。
業務改善	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	15	4	・週1回の援助方針会議は、自分自身の保育を振り返るきっかけになっています。会議内容は子どものマイナス点ばかりに目を向けず、どうして行ったら良いかという検討が多いことを望みます。 ・研修準備、振り返りシートの活用、勤務評価システム等に取り組んでいる。
	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	15	2	・正規職員と非正規職員では差がある。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	19	0	・更なる保護者への相談体制の強化が必要と思われる。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	16	0	・自己評価や改善の具体的な方策等を保護者、職員間へ周知する新しい発信方法が必要である。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12	3	・将来的に第三者機関の評価を受けることは必要である。
適切な 支援の提供	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	15	3	・もう少し専門的な研修が増えると良いと思う。
	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	19	0	・適切に面談し意向聞き取りを経て支援計画を作成している。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	16	1	・もう少しOTの中で取れる評価スケールを増やせると良いのかなと感じる。そのために評価の研修、勉強会に参加できると良いと考えている。 ・発達検査や社会生活能力検査等の客観的なアセスメントツールを活用している。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	18	0	・今後はより具体的な支援計画が求められ、それに則した支援の工夫が必要である。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	19	0	・職員間で情報の共有を積極的に行い、子どもの特性に合わせた支援を心掛けている。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	16	3	・週1回の援助方針会議、月1回のケース検討会議を実施している。 ・意見交換や相談はできているけれど、チームで行っているかと言われると言い切れないなと感じた。
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	16	3	・活動のバリエーションを増やす必要がある。 ・他の職員に相談したり、研修や勉強会に参加したりして、幅を広げることが心掛けている。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる支援の計画を作成しているか。	19	0	・専門支援、集団支援を組み合わせて提供している。
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	19	1	・毎朝、支援開始前に職員ミーティングを行い、確認している。 ・WOTや集団では、役割などについておはなししている。児に対する声かけやかかわり等を統一できるように心掛けている。 ・その様な時間が持てていないのが現状。
	⑱ 支援終了後は、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	18	2	・その様な時間が持てていないのが現状。 ・令和6年度は支援後のカンファレンスを実施予定。
⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	20	0	・記録の取り方にも改善、工夫が必要である。	
⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	16	1	・支援計画の見直し等についても職員間の共通意識を持って取り組む必要がある。	
関係機関や保護 者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	19	0	・児発管を中心に参画している。
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか。	19	0	・市保健センター、子育て支援課と連携している。
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか。	11	2	・別の教育機関や病院など医療機関でどのような支援をしているのかよく知らない。 ・正規、非正規職員関係なく関係機関との連携状況を周知していく必要がある。
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか。	11	3	・看護師を中心に連携している。
	㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	19	0	・可能な限り情報共有に努め、連携を強化している。
	㉖ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	19	0	・地域の学校への見学を踏まえて、情報提供の機会があると良いと感じる。
	㉗ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	10	6	・将来的に地域の児童発達支援の中心となる機能を求められている。 ・他の事業所やセンターなどに見学したり、研修参加したりする機会があると良いと感じる。
	㉘ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。	4	15	・家庭連携時に観察する機会はあるが、実際にかかわる時間もあると良いと感じる。
	㉙ (自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	12	5	・積極的に参加しているものの、実際に具体的な活動につながっているわけではない。
	㉚ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	20	0	・伝えようという意識は持っていますが、まだ受容につなげられていないケースもいるため、はいとも判断しにくいと感じる。 ・自己送迎の機会を利用して保護者とのコミュニケーションの時間を増やし、個別面談を月一回実施。
㉛ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか。	14	2	・必要に応じて実施しているが、今後はより充実した家族支援が必要と考える。	
保護者への説明 責任等	㉜ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	17	0	・利用契約時、詳細説明を行っている。
	㉝ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	17	0	・面談の中で保護者の意向を丁寧に聞き取り、支援計画を作成し、作成後あらかじめ面談の機会を持ち説明を行っている。
	㉞ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	19	0	・まだ上手くお答えできないことも多くありますが、他の職員と意見交換、相談したり、研修等自分自身も参加できる機会もあると良いと感じる。 ・月に一度のお話しの日(保護者個別面談)を設けている。
	㉟ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	13	4	・親の会(保護者会)が令和5年度解散という観点で、それに関わる保護者5名の方を令和6年度に提供を具体的に企画している。
	㊱ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	17	0	・相談や申し入れには速やかに対応している。
	㊲ 定期的な情報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	17	0	・集団支援では、行事ごとのお知らせの配布や連絡帳を用いた連絡体制、定期的な会報発行をしている。
	㊳ 個人情報の取扱いに十分注意しているか。	20	0	・個人情報保護、プライバシーへの配慮は、細心の注意を図っている。
	㊴ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	20	0	・相談体制の強化と共に、子どもたちとは様々な手法を用いて、わかる工夫、わかってもらう工夫が必要。
	㊵ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	8	・事業所の特性や保護者など家族のニーズに配慮しつつ検討していく必要がある。
	非常時の 対応	㊶ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	16	2
㊷ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		18	0	・定期的な避難訓練を実施している。
㊸ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		19	1	・看護師を中心に保護者へ確認を行っている。
㊹ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		20	0	・看護師を中心に保護者へ確認し対応している。
㊺ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。		19	1	・ヒヤリハット事例があった際は速やかに職員間で共有する体制を整えている。
㊻ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		18	0	・法人全体で年二回以上、虐待関連(職員メンタルヘルス含む)研修実施。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和6年3月1日

公表：令和6年4月1日

事業所名：取手市立こども発達センター

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が発達支援室等スペースとの関係で適切である	○		子ども速に分かりやすく支援室を構造化しています。	発達段階によりクラス分けしているため、段階に分かれた支援室の構造化を意図し実践していきます。
	2 職員の配置数は適切である	○		発達段階に合わせた職員数を配置しています。	より充実した支援の提供をするための職員配置をすると共に、各職員の資質向上に努めます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		生活空間については構造化をし整えてあります。設備についてはバリアフリー化を心掛けています。	既存の建物の為、完全なるバリアフリー化が難しい部分もありますが、出来る限りのアイデアで対応していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		利用児の集中力が高まるよう装飾等を少なくし、構造化し環境を整えています。	施設内設備等の安全管理を徹底し、活動しやすい空間づくりを目指します。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参加している	○		日常のカンファレンスや定期的な会議において職員の共通理解をもって業務改善にあたっています。	職員個々の具体的な目標設定と振り返りは正規職員において確立していますが、今後は非正規職員を含めた全職員に取り組みでいただき、業務の改善を目指します。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートを基に業務の改善に繋げています。	個別支援の提供回数や、提供時間について保護者からのニーズを勘案し精査する必要があると考えています。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに掲載しています。また、施設内でも掲示し広く発信しています。	既存の発信方法だけでなく、新しい形での発信方法を具体的に取り入れ、より理解を深めたいと努力をしています。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		関係機関の職員に、ご意見を頂いています。	将来的に第三者機関の外部評価を受けていく事を視野に入れ、業務の改善を目指します。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部、外部の研修を積極的に実施しています。	専門性を高める研修受講を推進し、参加機会、参加費用への配慮を含めた取り組みをしています。
適切な 支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		随時、保護者よりニーズや課題の聞き取りを行い、支援計画に反映できるようにしています。	客観的な分析が行えるよう、今後も研修などを通じて職員の分析力を高めていきます。
	11 子ども達の適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		適切なアセスメントを実施し、支援内容の工夫に繋がっています。	利用児の発達段階、特性、適応行動の情報が得られるよう今後もアセスメントツールを使用し理解を深めます。
	12 児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		支援計画を立てる際には、ガイドラインを見直すようにしています。	「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域を含めた総合的な支援を提供することを基本とし、支援内容について支援計画等において5領域とつなぐ明瞭化した上で提供していきます。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画内容が達成できるよう、日々の支援に活かしております。	保護者、職員間にて共通理解を持ちながら支援計画にあった支援を目指します。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		日々、話し合いながら、子どもの特性を理解し支援内容を検討しています。	プログラムのマンネリ化にならないよう、多職種と話し合う環境を整えていきます。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		スーパージョブを受けながら活動が固定化しないよう工夫しています。	日々のカンファレンス、定期的なケース検討会議を通して、活動の幅や内容が職員間で確認していきます。
	16 子ども達の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		毎月、処遇改善を実施しながら子どもに適した支援内容で計画を作成しています。	子ども達の状況が確認できるように日々のカンファレンスの中で報告し合えるようにしていきます。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		子どもたちの登園前にはクラスごとにミーティングを実施しています。	発達段階によりクラス分けをしているため、職員の役割分担には検討が必要となっています。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日、カンファレンスを実施しています。	支援内容の共通理解の為、カンファレンス内の記録を不在の職員に引継ぎが出来るよう、ノートに記入し閲覧しています。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個別記録をつけ、支援方法について見直しが行えるように配慮しています。	記録の為の職員負担の軽減や、支援の検証や改善が行えるよう、ICT化に向けた具体的な方策を進めていきます。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		半年ごとに支援計画の振り返りを保護者と一緒に行っています。	見直し時期を意図して取り組んでいます。	
関係機関や 保護者 との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	○		月1回、連絡会を設けお子さんの状況確認を行っています。	児童発達支援管理責任者を中心に会議に参加しています。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		市保健センター、子育て支援課等と適宜連携しています。	保護者支援が十分に行えるよう、職員の資質の向上を目指します。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		看護館を中心に関係機関との連携を深めています。	引き続き関係機関との連携を強化していくと共に、医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援するための知識や技術を職員に習得させるための専門的な研修を実施していきます。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子ども主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		地域の総合病院と協働医療機関として体制を整えています。	看護館を中心に引き続き医療機関との連絡体制を整えていきます。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の同意の基、各機関に情報提供を行い、一人ひとりに対して支援内容の引継ぎを行っています。	継続して切れ目のない支援を目指します。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		取手市の相談記録ファイル（みどりのファイル）を活用し、支援内容等の情報提供と相互理解を図っています。	保護者の方が子どものサポートファイルを持つきっかけとなるよう、引き続き相談記録ファイル（みどりのファイル）を活用し情報提供に努めます。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		発達障害者センター主催の研修にオンラインで参加しています。	研修受付けだけでなく、専門機関の施設見学や現場実習等も取り入れていきます。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		今年度は感染症予防のため実施が出来ませんでした。	令和6年度は関係機関と話し合いながら、積極的に交流を図っていきます。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		協議会に参加し、地域の他事業所との交流を図っています。	新設された取手市基幹相談支援センターと連携し、地域の中で連携できる事業所や機関を増やしていきます。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	○		日々、連絡帳を用いたり、登園降園時にコミュニケーションを取る等、情報交換に努め共通理解を持つようにしています。	引き続き、支援内容や子どもの発達状況について保護者と情報共有し、より充実した支援に繋がっていきます。
保護者への説明 責任等	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）の支援を行っている	○		必要に応じてペアレントトレーニングを実施しています。	ペアレントトレーニングに限らず、様々な形で保護者支援を充実させていく必要があると考えています。
	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用契約時に説明を行っています。	運営規程や利用者負担等について、適宜見せるような発信方法を検討しています。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		子どもの発達段階に合わせた目標を設定し、支援計画を作成し、保護者には計画書の説明後、署名捺印を頂き支援内容に同意を得ています。	今後も、適切な支援計画を立案し、保護者からの同意を得た上で目標達成に向けて活動のプランが提示できるように職員の資質の向上を目指します。
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		集団支援の中では、月に一度、お話をの日に設けるなど、保護者からの相談を受けられる体制を整備しています。	専門支援においては、支援終了後、担当職員と保護者がやり取りが出来ると同時に時間を設けています。今後は、必要に応じて適宜相談ができる体制を整備していきます。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		「親の会（保護者会）」総会の決定事項により、令和5年度を持って解散となりました。	親の会解散に伴い、それに代わる保護者交流の場を令和6年度に提供していくため、具体的なイベント等の実施を目指しています。
	36 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		随時、相談の申込を受けております。対応は迅速に行う努力をしています。	随時、相談員を配置し、相談しやすい環境づくりに努めています。施設内には、苦情相談窓口についての掲示もしています。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		定期的にクラスだよりを発行しています。また、連絡事項は必ず施設内に掲示をし周知しています。	定期的に配布してきたお知らせや施設内掲示だけでなく、将来的にはICTを活用した発信方法を検討していきます。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報保護、プライバシーへの配慮について細心の注意を図っています。	個人情報記載されている書類等は施設できる場所で管理いたします。職員採用時等、適宜個人情報保護やプライバシーへの配慮に関して研修を行っています。
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ペアレントメンターとの交流の場を設け情報伝達を行っています。	専門性のある研修実施、スーパージョブの導入など職員の資質向上を図る事で相談体制の強化を目指します。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		市内ボランティア団体との連携を強化しています。	保護者など家族にニーズに配慮しながら、地域との交流を意図した、開かれた事業運営を目指していきます。
非常時等 の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		発生を想定した研修・訓練を定期的に実施しています。	令和6年度マニュアルを更新しあらためて職員・保護者に周知を図り、対応の徹底を目指します。
	42 非常時の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的にクラスごとに、避難訓練を実施しています。	必要に応じて、地震や火事、水災害、不審者を想定した訓練を行うよう年間計画を作成しています。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を把握している	○		看護館が中心となり保護者に確認を行っています。	受理面談や契約時等に適宜保護者に確認しています。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		看護館が中心となり保護者に確認し対応しています。	現在、給食に関してはアレルギーが出来るないため、必要に応じて現時点で対応してありますが、将来的には給食におけるアレルギー対応の必要性があると考えています。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例があった際は速やかに職員間で共有する体制を整えています。	事故防止のため、月1回、リスクマネジメント会議を実施しています。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		法人内で年2回以上虐待防止研修を実施しています。	職員のメンタルヘルス研修を含めた虐待防止に関わる取り組みを継続して行っていきます。
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		身体拘束適正化委員会を定期的に開催し、必要に応じて、保護者に同意を得た上で計画書に記載しています。	身体拘束がされないような支援方法を職員同士で随時話し合い、支援内容の工夫に努めています。

〇この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

【保護者向け】 放課後等デイサービス評価 集計結果

公表：令和6年4月1日

利用児数 52名

事業所：取手市立こども発達センター

回 収 33名 (63.46% )

実施期間：令和5年9月1日～令和5年12月28日

※無回答有

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	改善目標 工夫している点
環境・ 体制整備	① 子どもの活動のスペースが十分に確保されているか。	33	0	0	0		・法令を遵守した広さを確保しています。 ・限られた広さの中、遊具等の配置を工夫し活動の幅を広げていきます。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか。	33	0	0	0		・専門性のある人材の確保、育成に努めます。
	③ 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか。	29	4	0	0		・随時、施設内外の設備、環境の見直しを行い、適宜バリアフリー化へ向けた修繕等を行ってまいります。
適切な 支援の提供	④ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されているか。	28	5	0	0		・面談を行った上でニーズを聞き取り、作成しています。
	⑤ 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか。	33	0	0	0		定期的に支援内容を精査し、専門性の高い外部講師によるスーパーバイズを受け、活動プログラムが固定化にならないようにします。
	⑥ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。	13	19	1	0	・正直分からない。障害のない子どもとの活動は小学校だけだと思う。	保護者のニーズや児童の特性に配慮しながら、交流活動について検討していきます。
保護者への説明 等	⑦ 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか。	33	0	0	0		・契約時や法令の変更時など適宜わかりやすく説明することを心がけています。
	⑧ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか。	30	3	0	0		・集団支援の中では、登園降園時の保護者の方とのコミュニケーションを大切に共通理解に取り組んでいます。 ・個別支援の中では、子どもへの支援後に毎回フィードバックを行い、保護者の方とコミュニケーションをとっています。
	⑨ 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか。	30	2	1	0	・いつも私のたいしたことない相談ののってもらえて助けてもらっています!!	容易に面談できる環境を整備し、相談体制を一層強化していきます。
	⑩ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか。	13	20	0	0		・保護者同士の交流、連携のきっかけとなるイベントの開催を目指します。
	⑪ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	24	9	0	0		・契約時等に苦情相談受付窓口設置について説明すると共に、施設内にもお知らせを掲示し周知を図っています。 ・相談員を随時配置し迅速かつ適切な対応に徹しています。
	⑫ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか。	31	2	0	0		・将来的にICT化を進め、よりニーズに合った情報提供の形を整備しています。
	⑬ 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか。	21	11	0	0		・自己評価の結果はホームページへの掲載、施設内掲示等で発信しています。
	⑭ 個人情報に十分注意しているか	32	1	0	0		・職員向けに定期的に個人情報保護、プライバシーへの配慮について研修を行っています。 ・支援中の写真や画像の撮影等について注意喚起のお知らせを掲示し周知しています。
非常時等 の対応	⑮ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	22	9	2	0		・保護者が容易にマニュアル等を確認できるシステム（ICT化）構築をすすめます。
	⑯ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	15	18	0	0		・集団支援の中では、定期的に避難訓練を実施しています。
満足度	⑰ 子どもは通所を楽しみにしているか	29	4	0	0	・センターが1番好きとっています!!	・子どもたちがいきいきと活動できるよう、支援内容の工夫に努めています。
	⑱ 事業所の支援に満足しているか	30	3	0	0	・月に利用できる日数がもう少し増えると良い。	・アンケート等を用いて保護者のニーズを聞き取り、慎重に検討していきます。



【事業者向け】 放課後等デイサービス自己評価 集計結果

公表：令和6年4月1日

職員数 3名

事業所：取手市立こども発達センター

回収 3名(100%)

実施期間：令和5年10月1日～令和5年12月28日

※無回答有

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点 課題や改善すべき点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	3	0	0	・十分なスペースを考慮して利用を受け入れています。
	②	職員の配置数は適切であるか。	3	0	0	・人員配置基準に則した配置をしている。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか。	3	0	0	・可能な限りバリアフリー化し環境整備に努めている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	3	0	0	・正規職員と非正規職員では差がある。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	3	0	0	・保護者の意向を支援内容に反映できるように、相談の体制をより充実させる必要はある。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	3	0	0	・HP掲載や施設内掲示などにより発信しているが、新しい形での発信も視野に入れるべきである。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	0	0	・将来的には第三者機関の評価を受けることは必要である。
適切な支援の提供	⑧	職員の資質の向上を行うため、研修の機会を確保しているか。	1	1	1	・職員間で研修参加率に差がある。 ・職員が研修に参加しやすくなる配慮が必要。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	2	1	0	・保護者面談を経て適切に支援計画を作成しているが、更なる相談体制の充実が必要である。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	2	1	0	・発達検査や社会生活能力検査等の客観的なアセスメントツールを活用している。 ・検査を取れる職員の不足が課題。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	0	0	・カンファレンス等を通じて職員の共通認識を持って支援を提供している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	0	0	・職員の専門性の高い研修参加も必要となってくる。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか。	3	0	0	・支援内容の工夫は意識している。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3	0	0	・利用児の特性に合わせて作成している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	3	0	0	・職員間のコミュニケーションを確認している。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	3	0	0	・支援終了後、カンファレンスを行い情報共有している。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	0	0	・必要な情報を記録し支援内容の工夫に繋げているが、記録の保管方法などは検討すべきである。 ・電子化されていない部分がある。
関係機関や保護者との連携	⑱	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。	2	1	0	・支援計画の見直しは職員間で共通意識を持って取り組んでいる。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか。	3	0	0	・適切に支援を提供している。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	3	0	0	・児発管を中心に参画している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確保）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	1	1	1	・学校行事により支援を受けられない児童が多くなならないよう、情報共有に努め、配慮している。
	㉒	医療ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。	1	1	1	・現在、医療ケア児を受け入れていないが、将来的に受け入れられる体制整備は必要である。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	0	0	・情報共有に努めている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	0	1	・小学2年生までのサービス提供となつているため、障害福祉サービス事業所には直接情報提供を行っていない。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	1	1	1	・関係機関との連携は重視しているが、助言を受けたり研修を受けたり関係性は少ない。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会はあるか。	0	2	1	・事業所の特性を考えると交流することは困難である。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	1	0	・積極的に参加してはいるが、具体的に充実したサービス提供につながっているかどうかは疑問である。
保護者への説明責任等	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解持っているか。	3	0	0	・個別支援の場合は、支援後のフィードバックの時間を活用してコミュニケーションを取り、集団支援の場合は、自己送迎の機会を利用して保護者とのコミュニケーションを重視し、共通理解に努めている。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか。	3	0	0	・必要に応じて実施している。
	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	0	0	・契約時に説明している。
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	3	0	0	・相談員を随時配置し相談体制を強化している。
	㉜	父母会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	2	0	1	・保護者交流のための機会を作ることが必要である。
	㉝	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	0	0	・苦情受付相談窓口設置についてのお知らせを施設内に掲示している。
	㉞	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	2	0	1	・わかりやすい情報の提供に努めている。
非常時等の対応	㉟	個人情報に十分注意しているか。	3	0	0	・支援時の撮影等について注意喚起のお知らせを掲示している。
	㊱	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	0	0	・相談体制の強化と共に、子どもたちは様々な手法を用いて、わかる工夫、わかってもらいう工夫が必要。
	㊲	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	1	1	・事業所の特性や保護者など家族のニーズに配慮しつつ検討していく必要がある。
	㊳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか。	2	1	0	・保護者への周知方法は課題である。
	㊴	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	2	0	1	・定期的な避難訓練を実施している。
	㊵	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2	0	1	・法人全体で年2回以上、虐待関連（職員メンタルヘルス含む）研修実施。
	㊶	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	0	0	・身体拘束適正化委員会を定期的に開催し、必要に応じて、保護者に同意を得た上で計画書に記載しています。
関係機関や保護者との連携	㊷	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	0	0	・看護師を中心に対応している。
	㊸	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	2	1	0	・ヒヤリハット事例があった際は速やかに職員間で共有する体制を整えている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和6年3月2日

公表：令和6年4月1日

事業所名：取手市立こども発達センター

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		子ども達に分かりやすく支援室を構造化しています。	発達段階によりクラス分けしているため、段階に分かれた支援室の構造化を意識し実践していきます。
	2 職員の配置数は適切である	○		発達段階に合わせた職員数を配置しています。	より充実した支援の提供をするための職員配置をすると共に、各職員の資質向上に努めます。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		バリアフリー化を心掛けています。	既存の建物の為、完全なるバリアフリー化が難しい部分もありますが、出来る限りのアイデアで対応していきます。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		日常のカンファレンスや定期的な会議において職員の共通理解をもって業務改善にあたっています。	職員個々の具体的な目標設定と振り返りは正規職員において確立していますが、今後は非正規職員を含めた全職員に取り組みをいただき、業務の改善を目指します。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートを基に業務の改善に繋がっています。	個別支援の提供回数や、提供時間について保護者からのニーズを勘案し精査する必要があると考えています。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに掲載しています。また、施設内でも掲示し広く発信しています。	既存の発信方法だけでなく、新しい形での発信方法を具体的に取り入れ、より理解を深めていただく努力をしています。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		関係機関の職員に、ご意見を頂いています。	将来的に第三者機関の外部評価を受けていく事を視野に入れ、業務の改善を目指します。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部、外部の研修を積極的に実施しています。	専門性を高める研修受講を推進し、参加機会、参加費用への配慮を含めた取り組みをしていきます。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		随時、保護者よりニーズや課題の聞き取りを行い、支援計画に反映できるようにしています。	客観的な分析が行えるよう、今後も研修などを通じて職員の分析力を高めていきます。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		適切なアセスメントを実施し、支援内容の工夫に繋がっています。	利用児の発達段階、特性、適応行動の情報が得られるよう今後もアセスメントツールを使用し理解を深めます。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		日々、話し合いながら、子どもの特性を理解し支援内容を検討しています。	プログラムのマンネリ化にならないよう、多職種と話し合う環境を整えていきます。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		適宜、支援内容を見直し、工夫しています。	日々のカンファレンス、定期的なケース検討会議を通して、活動の幅や内容が職員間で確認していきます。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		状況に応じて職員間の話し合いの基、支援内容の工夫に努めています。	より細やかな課題設定の為に、専門性のある知識と技術を持った職員の育成・確保が必要となっています。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		適宜、処遇改善を実施しながら子どもに適した支援内容で計画を作成しています。	子ども達の状況が確認できるように日々のカンファレンスの中で報告し合えるようにしていきます。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		子どもたちの登園前には職員ミーティングを実施しています。	前回のカンファレンスで出た課題を勘案し、支援内容、役割分担に努めています。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日、カンファレンスを実施しています。	支援内容の共通理解の為、カンファレンス内の記録を不在の職員に引継ぎが出来るよう、ノートに記入し回収しています。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個別記録をつけ、支援方法について見直しが行えるように配慮しています。	記録の為に職員負担の軽減や、支援の検証や改善が行えるよう、ICT化へ向けた具体的な方策を進めていきます。
	18 定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		適宜、支援計画の振り返りを保護者と一緒に行っています。	見直し時期を意識して取り組んでいます。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		適切な支援の提供を心掛けています。	今後は5領域を含めた総合的な支援の提供が必要となっていきます。	
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者を中心に会議に参加しています。	子どもの状況によっては児発管と担当保育士（児童指導員）を含め会議に参加することで、より充実した支援の提供に繋げる努力をしています。
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		市内学校と連携し、行事等に配慮したサービス提供を心掛けています。	市内学校行事の年間計画を把握し、児童のサービス利用の機会を確保していきます。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		現在は、医療的ケアを受け入れていません。	今後は放課後等デイサービスにおいても医療的ケアを受け入れる可能性があることを勘案し、受け入れ体制の整備が必要となると考えます。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		情報共有に努めています。	取手市の相談記録ファイル（みどりのファイル）を活用し、支援内容等の情報提供と相互理解を図っています。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		情報共有に努めています。	取手市の相談記録ファイル（みどりのファイル）を活用し、支援内容等の情報提供と相互理解を図っています。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		関係機関との連携は重視しています。	将来的に取手市立こども発達センターが地域の児童発達支援事業の中核的存在となる為、中長期的な計画が必要となっています。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		現在は積極的な交流は行っていません。	現在の事業所の特性を考えると、積極的な交流は困難だが、将来的には検討が必要となると考えます。
	27 （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○		協議会に参加し、地域の他事業所との交流を図っています。	新設された取手市基幹相談支援センターと連携し、地域の中で連携できる事業所や機関を増やしていきます。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		登園時等に保護者とコミュニケーションを取ることにより、情報交換に努め共通理解を持つようになっています。	引き続き、支援内容や子どもの発達状況について保護者と情報共有し、より充実した支援に繋がっていきます。
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	○		必要に応じてペアレントトレーニングを実施しています。	ペアレントトレーニングに限らず、様々な形で保護者支援を充実させていく必要があると考えています。	
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用契約時に説明を行っています。	保護者が、運営規程や利用者負担等について、適宜見直せるような発信方法を検討しています。
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談員を配置し、保護者からの相談を受ける体制を整えています。	個別支援においては、支援終了後、担当職員と保護者がやり取りが出来るように時間を設けています。今後は、必要に応じて適宜相談ができる体制を強化していきます。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		「親の会（保護者会）」総会の決定事項により、令和5年度を持って解散となっています。	親の会解散に伴い、それに代わる保護者交流の場を令和6年度に提供していくため、具体的なイベント等の実施を目指しています。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		随時、相談の申込を受けております。対応は迅速に行う努力をしています。	随時、相談員を配置し、相談しやすい環境づくりに努めています。施設内には、苦情相談窓口についての掲示もしています。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		印刷物により適宜情報発信に努めています。また、連絡事項は必ず施設内に掲示をし周知しています。	お知らせ等の配布や施設内掲示だけでなく、将来的にはICTを活用した発信方法を検討していきます。
	35 個人情報に十分注意している	○		個人情報保護、プライバシーへの配慮について細心の注意を図っています。	個人情報記載されている書類等は施設できる場所で管理いたします。職員採用時等、適宜個人情報保護やプライバシーへの配慮に関して研修を行っています。
	36 障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ペアレントメンターとの交流の場を設け情報伝達を行っています。	専門性のある研修実施、スーパーバイズの導入など職員の資質向上を図る事で相談体制の強化を目指します。
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		市内ボランティア団体との連携を強化しています。	保護者など家族にニーズに配慮しながら、地域との交流を意識した、開かれた事業運営を目指していきます。
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			令和6年度はマニュアルを更新しあらためて職員・保護者に周知を図り、対応の徹底を目指します。保護者へ向けたマニュアルの周知に関しては課題となっています。
	39 非常発生の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		発生を実施した研修・訓練を定期的に実施しています。	必要に応じて地震や火事、水災害、不審者を想定した訓練を行うよう年間計画を作成していきます。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		法人内で年2回以上虐待防止研修を実施しています。	職員のメンタルヘルス研修を含めた虐待防止に関わる取り組みを継続して行っていきます。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、拍論的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束適正化委員会を定期的に開催し、必要に応じて、保護者に同意を得た上で計画書に記載しています。	身体拘束がなされないような支援方法を職員同士で随時話し合い、支援内容の工夫に努めています。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		看護師を中心に対応しています。	現在、センター内で提供する給食に関してはアレルギー対応が出来ていません。将来的にはアレルギー対応を含めた給食提供を考える必要があります。
43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例があった際は速やかに職員間で共有する体制を整えています。	事故防止のため、月1回、リスクマネジメント会議を実施しています。	